大阪大学版・大学院での
新しい学び方ガイド

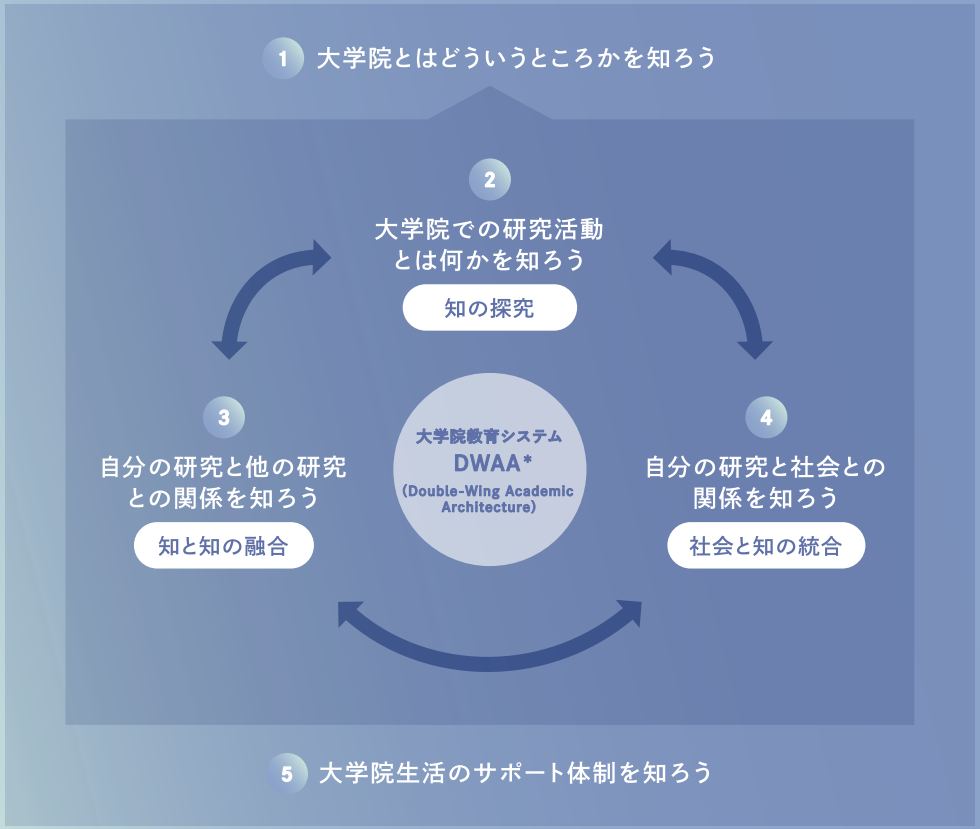
大阪大学
国際共創大学院学位プログラム推進機構
横断型教育統括部門

2024

Preface

かつての大学院での学び方は、自分のゼミや研究室で黙々と自分の専門を究めるというスタイルが一般的でした。しかしこれからは、他の専門分野や社会との関わりを持って専門を究め、新たな価値を生み出す人材になることが求められています。大阪大学でも学際融合や横断教育という言葉をよく目にしますが、大学院生が各自の専門分野をもとに他の分野を学び、双方を融合／統合する方法は必ずしも明確ではありません。このガイドブックは、将来への期待と不安が入り混じる大学院生活を送るみなさんを、研究面だけでなく研究以外の面からもサポートするために作成されました。異分野の学生と対話をするきっかけとしてもこのガイドブックを使ってもらい、自身の専門分野を客観的に捉える機会にしてもらえたらと思います。また、大学院生だけでなく学部生の方々にもぜひ読んでもらい、近い将来の自身の姿をイメージする一助としてもらいたいと思います。これまでとは違った大学院での学び方が見えてくることでしょう。

本ガイドブックの内容構成図



* 大阪大学ではDWAAという枠組みで知の探究、知と知の融合、社会と知の統合のそれぞれの方向に教育が広がっています。

Index

Preface — P.1

本ガイドブックの内容構成図 — P.1

1.大学院とはどういうところかを知ろう — P.3
- 学部と大学院の違い
  - 先輩の声　大学院で学ぶ意味①
- 修士号と博士号の違い
  - 先輩の声　大学院で学ぶ意味②
- 大学院での多様な活動

2.大学院での研究活動とは何かを知ろう［知の探究］ — P.5
- 卒論・修論・博論の違い
  - 先輩の声　研究の新規性の見つけ方
- 一つの論文を発表するまでの過程
- 大学院での研究のペース

3.自分の研究と他の研究との関係を知ろう［知と知の融合］ — P.7
- 専門分野以外の学び
  - 先輩の声　専門以外の授業の受講理由
- 総合大学としての大阪大学の強み
  - 先輩の声　全学的なイベントへの参加理由
  - 先輩の声　専門と異分野の学びが結びついた事例

4.自分の研究と社会との関係を知ろう［社会と知の統合］ — P.9
- 社会との繋がりの作り方
  - 先輩の声　大学外での活動の広げ方
  - 先輩の声　研究と社会が関連づいた事例

5.大学院生活のサポート体制を知ろう — P.11
- 学費や生活費で悩んだら
- キャリア選択で悩んだら
- 心の不調や人間関係で悩んだら
- ジェンダーのことで悩んだら

Postface — P.13

参考文献・ウェブサイト — P.13

編集者・執筆者・協力者一覧 — P.14

1 大学院とはどういうところかを知ろう

学部と大学院の違い

大学院は学部卒業後に自らの専門性を高め、学問を深めるために進学する教育・研究機関です。自らで問いを設定し、まだ誰も見つけていない新しい発見を行う営みである研究を行います。大学院を修了するには規定の授業の単位を修得するだけでなく[1]、修士論文（修論）／博士論文（博論）を提出する必要があります。また大学院では、より高度な教養や深い思考力、分析力、文章作成力、語学力等の汎用性の高いスキルの獲得も求められます。

先輩の声　大学院で学ぶ意味①

これまでに先人によって紡がれてきた研究を紐解き、自分の視点から研究を行って発表することで、自分も学問の発展に少しでも寄与できることが嬉しいです。

学部で学んだことを別の視点から考え、自らの研究にインパクトを持たせるために、学部とは違う研究科に進学しました。

修士号と博士号の違い

学部の卒業で取得できる学士号の次の段階の学位として、修士課程（博士前期課程）を修了すると修士号を、博士課程（博士後期課程）を修了すると博士号を取得できます。修士号と博士号の主な違いは専門性と研究遂行能力の高さです。2年間の修士課程では、教員の指導のもとで研究を進め、研究力や専門性を身につけます。3年間の博士課程では、教員の指導を受けながらも、研究者として自立するための礎となる研究を行い、研鑽を積み重ねます[2]。また、2章で詳述しますが、修士号と博士号では研究で求められる新規性や独自性も異なります。

[1] 一般的に、修了要件として求められる修得単位数は、修士課程では30単位以上であるのに対し、博士課程では6～10単位程度です（参考：中央教育審議会大学分科会大学院部会）。

[2] 修士課程、博士課程と区分せず、5年間の一貫制博士課程としているところもあります。また、博士課程を4年間としているところもあります。なお、博士課程を修了した後に大学や研究機関等で任期付の研究員（ポストドクター、ポスドク）として働くケースもあります。

先輩の声　大学院で学ぶ意味②

学部の卒業論文（卒論）の研究では物足りず、自分の専門を確立し、研究者になることを目指して大学院に進学しました。興味関心を追究し、成果を形にすることで達成感も得られます。

希望の職種で働くには修士号あるいは博士号が必須なので、自分の専門分野で最先端の研究を行う教員の指導を受けることができる大学院に進学しました。

大学院での多様な活動

大学院生活の中では研究以外にも様々な活動に取り組みます。自らの専門とは異なる分野を学んだり社会との繋がりを考えたりすることで、視野や人脈を広げることができます。このことは3章と4章で説明します。また、視野を広げるための留学や、自分の経験や知識を活かしつつ、将来のキャリアに繋がるアルバイトやインターンシップを希望する人もいるかもしれません。学内のアルバイトやその他のサポート体制に関しては5章で紹介しますので、ここでは留学について触れておきます。

交換留学などの学内の制度を利用する方法もありますが、語学力の向上などではなく研究を主な目的としたい場合には大学院への留学も選択肢の一つです。日本ではまだ取り入れられていない研究手法や技術を学んだり、世界中の研究者と交流したりする機会を得ることができます。また海外の大学院での研究実績は、就職や昇進において高く評価されることもあります。留学を考えているのであれば早めに教員に相談し、利用可能な奨学金制度を調べておきましょう。海外の奨学金は、一年以上前に出願しなければならないこともあります。大阪大学国際教育交流センターでは、留学を希望する学生や留学が決まった学生を対象に教員によるメールや個別面談による留学相談アドバイスを実施し、経験学生による留学相談アドバイスの機会も定期的にあります。まずは気軽に海外との関わりを持ちたいという場合は、多言語カフェに参加したり留学生チューターに応募したりするという方法もあります。

大学院生の1週間のスケジュール例

時限	時間	月	火	水	木	金	土	日
1	8:50-10:20	授業の予習	授業	研究	授業	研究	アルバイト（学外）	休暇（or 研究）
2	10:30-12:00							
3	13:30-15:00		研究		研究	アルバイト（TA）		
4	15:10-16:40	副専攻の授業						
5	16:50-18:20	研究				イベント参加		
6	18:30-20:00	アルバイト（学外）		ゼミ				

2 大学院での研究活動とは何かを知ろう
[知の探究]

卒論・修論・博論の違い（参考：Focus、Acaric）

卒論、修論、博論は学位論文と呼ばれ、学士号、修士号、博士号を取得するために執筆します。専門性と研究遂行能力の高さはもちろんのこと、学位が上がるにつれて新規性や独創性も求められます。卒論は、所属するゼミ・研究室で指導教員の指導を受けながら実験や調査を行い、結果と考察を文章にします。情報を整理、分析し、論理的に表現する能力は学位論文の基礎であり、修論や博論の執筆においても重要です。修論と博論は、より幅広い知識と研究力に加えて、学術理論や分析方法、研究成果に新規性が必要です。中でも博論は、学会誌に掲載された自身の複数の論文をもとに構成され、特定分野の専門知識と研究者として自立できる能力を保有しているという証明になります。学内外の専門家によって厳格に審査され、原則として博論の全文は所属機関または国会図書館で公開されます。

先輩の声　研究の新規性の見つけ方

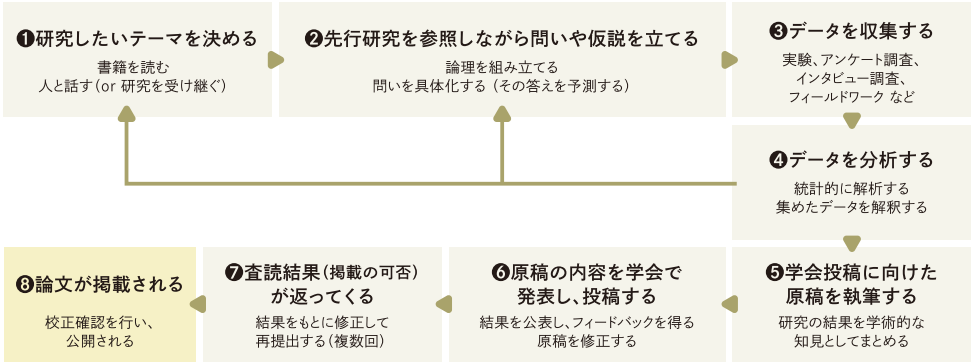
博論は、研究支援をしたくなる、あるいは少なくとも今後の研究の成果が気になる研究だと良いと思います。研究対象が社会の影響を受け続ける場合、変化に追いつくために調査し続けなければなりません。ここに研究対象の今を見ることができます。

現実社会の課題に対してPDCA（Plan-Do-Check-Action）を回しながら改善策を見つけていく中で、新たな分析の視点を見つけることができます。

一つの論文を発表するまでの過程

学術雑誌への論文の掲載によって研究成果を発表することが研究活動の一つの区切りとなります。前述の通り、論文発表を重ね、博論執筆へと繋げます。

Illustration by Storyset

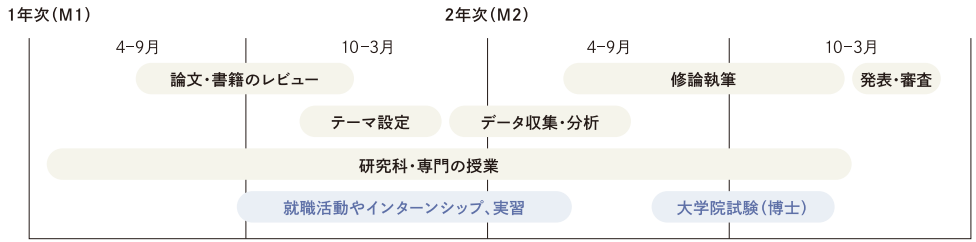


大学院での研究のペース

ここで示すペースは一例です。自身の研究との類似点や相違点を考えてみてください。

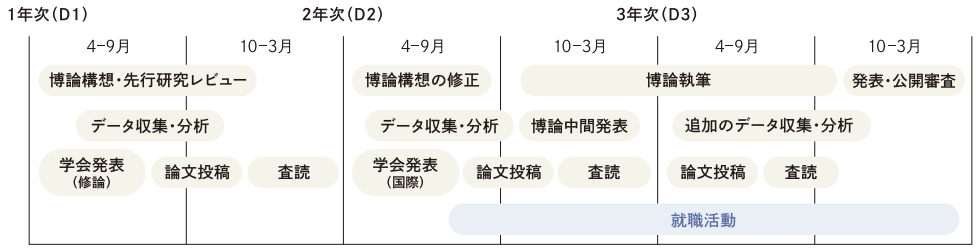
修士課程

- 研究テーマの設定については、卒論の内容を発展させる、先輩から受け継ぐ、研究室での調査や研究の一部を担当する、自分で新しく探すなど様々な方法があります。
- 研究と同時に、就職活動や短期・長期のインターンシップ、今後のキャリアに向けた活動も行います。



博士課程

- 学会発表や論文投稿を通して実践的に研究を進めながら博論を執筆します。
- 分野によっては3年以上の時間をかけて修了するというケースも珍しくありません。



3 自分の研究と他の研究との関係を知ろう
［知と知の融合］

専門分野以外の学び

大学院は研究をするところですが、自らの研究「だけ」をするところではありません。他分野の人とコミュニケーションをとり、協働して学ぶ中で、個人や専門分野の研究では身につけられない能力（専門をわかりやすく伝える能力や問題発見能力、課題解決能力など）を伸ばす機会が大阪大学にはたくさんあります。自らの分野内外で大きな志を持って研究する大学院生から刺激を受け、自分の研究対象を多角的に見ることで、専門性を広げることもあり得るでしょう。その結果、新たな価値を生み出す、付加価値の高い修士人材／博士人材になることができます。

大阪大学には専門分野以外を学べる様々な教育プログラムや授業があります。それらを上手く活用すると、自身の学びを自主的にデザインすることができます。例えば、興味関心に沿ってアラカルト的に学びたい場合は高度教養教育科目、専門分野を活かすために体系的に大学院レベルの教養を獲得したい場合は大学院等高度副プログラムがあります。新たな分野をさらに深く学びたい場合は大学院副専攻プログラム、博士課程教育リーディングプログラム、卓越大学院プログラム、理工情報系オナー大学院プログラム、人文社会科学系オナー大学院プログラムがあります。

先輩の声　専門分野以外の授業の受講理由

他分野の人と話すことで研究目的や方法を再考したかったので、高度教養教育科目のうち「対話術A（哲学対話入門）」と「システム思考」を受講しました。

実験中に時間が空くことが結構あるので、研究やキャリアに役立てるために副専攻や高度副プログラムの授業を受講しました。

総合大学としての大阪大学の強み

大阪大学では、人文社会系、理工系、医歯薬系と幅広い授業科目やイベントが提供されています。自分の専門分野以外の教員の授業もシラバスなどで確認し、興味を惹かれる授業は履修してみましょう。研究科外の授業や全学的なイベントに参加することもできます。幅広い学年、分野の人と接し、自らの研究を相対的に捉え、足りない視点を補うことも可能です。そこでできた繋がりが将来的に自身の研究やキャリア選択に役立つこともあります。掲示板やメール、KOAN、マイハンダイアプリなどで定期的に案内を確認してみましょう。

先輩の声　全学的なイベントへの参加理由

様々な分野や社会課題に対して自らの専門分野や研究を活かす方法を考えるために、社会ソリューションイニシアティブの「学生のつどい」に参加しました。

キャリアや考えが定まっていない学生の時期に色々と吸収することは大切だと思うので、自分に必要だと思うイベント等には積極的に参加するようにしています。

先輩の声　専門と異分野の学びが結びついた事例

他分野を学ぶ喜びから研究・キャリアに応用していく喜びに！

学部時代から異分野の勉強をすることが好きでした。大学院では自分の研究に統計学を活かしたいと思いました。学びたかった事が学べたのはもちろんですが、授業で他専攻の学生と交流でき、先生方に自分の研究内容を相談することもできました。また、得られた知識を研究に活かし、若手研究者フォーラムで奨励賞を獲得することができました。プログラムで学んだ統計学の知識を今後のキャリアの軸としていきたいです。

（高度副プログラム「デジタルヒューマニティーズ」受講生／人文学研究科）

自分が進んだ道を理解し、指導時に役立たせたい！

看護師をしていましたが、大学教員になることにも興味がありました。プログラムを受講する中で、異分野の学生の考え方や授業の仕方には違いがあることを感じました。この経験を通じて、自分のアイデンティティが看護学にあることを再認識することもできました。将来、看護現場で臨機応変に対応できるような学生を教育することができるよう、柔軟性のある教員になりたいと決心しました。

（高度副プログラム「未来の大学教員養成プログラム」受講生／医学系研究科）

4 自分の研究と社会との関係を知ろう
[社会と知の統合]

社会との繋がりの作り方

人と繋がる機会を増やす

3章の「総合大学としての大阪大学の強み」でも触れましたが、大学院時代に授業やイベント、アルバイト、インターンシップを通して学生や教員をはじめ、多くの人と関わることをきっかけに社会との繋がりを作ることができます。将来研究者になるにしても企業で働くにしても、大学外にも視野を広げることが大事です。研究と社会活動が密に結びついている、あるいは社会への発信を積極的に行っている学生や研究者等と繋がり、時に協力し合うことで、自分が所属するゼミ・研究室、研究科を越えたネットワークが生まれます。社会課題を解決するために必要なイノベーションも異分野同士の結合から生み出されます。そこで出会う人々は困った時の相談相手にもなり得ます。

また、すでに卒業して社会で働いている友人を通して社会を知るのも良いでしょう。大学院での研究内容を話してコメントをもらうことで、研究の意義や社会における価値を再発見する機会になります。就活についても有益なアドバイスを得られるでしょう。

自分の研究を様々な場で発表する

学術論文以外にも、学内外のイベントでも自身の研究に関する発表を行う機会はたくさんあります。プレゼン、ピッチ(ショートプレゼン)、ビジネスコンテストなどにも参加してみましょう。分野外や市民からのコメントが研究のヒントに繋がることもあります。他にも新聞や雑誌にコラム記事を投稿して、読者に専門分野の面白さを伝えることもできます。また、研究成果を特許などの知的財産にすることで社会に広めることもできます。大阪大学には特許取得に関連する授業やプログラムも開講されています。

社会と繋がる目的を考え、周囲に伝える

在学中に自分がやりたい企画やプロジェクトがあれば、友人や周囲の学生、教員に積極的に話してみましょう。社会に出るまで待っている必要はありません。それを実現するための最適な環境や人材に出会えるようにアレンジしてもらえることも多々あります。自分でできることには限界がありますから、他の人を上手に頼ることも大切です。様々な支援を得て、どのようにしたら自分がやりたいことをできるのかを考え、まずは実践に移してみましょう。大阪大学共創機構にはInnovators' Club(i-Club)という、イノベーション・新規事業・スタートアップ・学生起業等に興味のある人たちが集まるコミュニティがありますので、活用してみるのも良いでしょう。

先輩の声　大学外での活動の広げ方

高度教養教育科目「研究方法とアウトリーチのデザイン」を受講しアウトリーチ活動を実践する中で、自分の研究はマニアックだと思っていましたが、他の人にも興味を持って聞いてもらえて、研究の価値を再認識することができました。

自分の研究を社会に活かす一つの手段として、地域でのワークショップを企画しました。大学内の知り合いを通じて、その地域ですでに活動を行っている人に相談し、開催場所の確保や必要な手続き、広報をするための協力者に繋いでもらえました。

先輩の声　研究と社会が関連づいた事例

アカデミックな研究を社会に近づけて考えられるようになった！

大学院の研究だけでは自分の専門だけに特化して他の可能性を見失ってしまうと感じ、プログラムを履修しました。異分野の研究内容や手法を学ぶことで、自分の知見を広めることができました。また、社会人の方と議論する講義もあり、企業で働く技術者としての考え方や製品開発のプロセスを学ぶことができました。これまで学術的にとらえていた研究を実務的に考える良い機会になりました。就職後も学びを活かし、業務を通じて社会に還元していきたいと考えています。

（副専攻プログラム「ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム」・高度副プログラム「データ科学・機械学習コース」受講生／基礎工学研究科）

科学技術・医療・実習をリンクさせて考える力が身についた

公認心理師になるために病院実習に行く中で、最新の医療技術や健康問題に触れる機会が多くなってきたため、関連する二つのプログラムを履修しました。片方のプログラムで学んだ医療技術がもう一方のプログラムでは健康課題として登場し、多角的に考えることができました。また、実習とそれぞれのプログラムでの勉強をリンクさせることで理解が深まりました。今後は社会問題にも視野を広げ、就職後も医療技術や社会実装などの事業で役立てていきたいです。

（副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」・高度副プログラム「ユネスコチェア「グローバル時代の健康と教育～健康のための社会デザイン～」」受講生／人間科学研究科）

自ら考え、周りを巻き込みながら社会のために行動していく力を！

認知症を理系的なアプローチで研究するため、今の専攻に進みました。プログラムの授業は主体的に関わることができる内容で、副専攻とのメリハリをつけながら自分の研究をやり遂げることができて自信がつきました。また、プログラムの支援により異分野の学生と共同で認知症に関する研究を行い、現状の課題に対して多角的に考えることができました。プログラムを通じて社会に貢献することにやりがいを感じることに気づけたので、就職後も学んだ内容を活かしていきたいです。

（副専攻プログラム「超域イノベーション副専攻プログラム」受講生／医学系研究科）

5 大学院生活のサポート体制を知ろう

大学院での新しい学びを心置きなく十分に実践するためには、
学内で活用できるサポート体制を知っておくことが大切です。

学費や生活費で悩んだら

大学院で学ぶにも学費や生活費が必要になります。約7割の大学院生がアルバイトをしています（全国大学生活協同組合連合会、2023）。大阪大学では図書館のラーニング・サポーター（LS）や授業の補助業務を行うティーチング・アシスタント（TA）／ティーチング・フェロー（TF）、研究の補助業務を行うリサーチ・アシスタント（RA）などの学内アルバイトがあります。これらの募集情報はKOAN等で随時確認できます。学内での勤務経験は、就活においてアカデミックキャリアの経験として履歴書に書くこともできます。アルバイト以外にも、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の奨学金を借りる、高等教育の就学支援新制度を利用する、大学の授業料免除等制度に申請する、民間の奨学金を借りるといった方法もあります。

大阪大学の博士課程教育リーディングプログラムやオナー大学院プログラム、次世代挑戦的研究者育成プロジェクトなどでは、プログラムを受講し、研修に参加することによって研究を深めることに対し、生活費補助や学費免除が得られる制度があります。

また、研究費を確保する際には、日本学術振興会特別研究員制度や民間の研究助成金制度を活用するという手段もあります。

キャリア選択で悩んだら

大学院生には様々なキャリアの選択肢があります。研究職や大学教員など、専門に関連する仕事に就く人もいれば、修論や博論の研究テーマとは関係のない企業に就職する人もいます。後者の場合、大学院での学びや研究が活かされていない訳ではありません。就職活動や社会で働く場面において、研究プロセス（実験、調査、執筆、発表など）の中で培われた深い思考力、広い視野、文章作成、プレゼン能力といった様々なスキルは高く評価されます。大学院で身につくスキルには研究だけではなくビジネスでも通用する汎用性の高いスキルもあるのです。

日本では在学中に就職活動を終え、大学院を修了した翌月から仕事を始めることが一般的です。国内の企業に就職する場合、政府主導の「就活ルール」があり、修士課程の大学院生は学部生とほぼ同じスケジュールです。卒業・修了の1年半～2年前から就職活動を始める学生が一般的です。理工系では研究室推薦があるゼミも少なくありませんが、分野によって異なります。医歯薬系で医療職を目指す際も独自のプロセスとなります。なお、博士課程の大学院生やポスドクは就活ルールの適用範囲外のため、年中採用選考の対象になります。

大阪大学にはキャリアセンターがあり、いつでも無料で相談したり就職支援情報にアクセスしたりすることが可能です。また、キャリアサポーター制度があり、様々な業界の先輩と繋がることも可能です。積極的に活用して効率的に就活を行い、研究や他の分野の学びなど、大学院でしかできない学びに多くの時間を費やしてください。

大学教員や研究者を志望する場合、毎年秋～冬頃に公募情報が多く出されますが、それ以外の時期にもJREC-INなどで随時確認しておくのが良いでしょう。また採用されるためには、研究業績のみならず、大学での非常勤講師等を経験して教育業績を積み重ねておくことも重要です。大学院等高度副プログラムの「未来の大学教員養成プログラム」では大学教員になるためのノウハウを学ぶこともできます。

心の不調や人間関係で悩んだら

大学院生が抱える悩みには「研究がうまく進められない」、「ゼミ・研究室で他の学生や教員との人間関係がうまくいかない」といった研究に関わるものが多くあります。まずは、将来のキャリアを考え、大学院で学ぶ目的を明確にすることから始めてみましょう。その他にも、大学院では学生が主体的に研究する必要があり、心身の疲労を感じることもあるかもしれません。理工系や医歯薬系の場合はコアタイム制度（研究室で活動しなければならない時間帯）を設けている研究室が多く、その分研究時間が増えることになります。また、人文系の場合は個人で研究を行うケースが多く、悩んだ時に自分から聞けずに孤立してしまうことがよくあります。もちろん、プライベートでの悩みが原因で研究に打ち込めないこともあります。

大阪大学にはキャンパスライフ健康支援・相談センターの相談室やなんでも相談室が各キャンパスにありますので、どんなことでも良いので相談に行き、カウンセラーと一緒にじっくりと考える時間を持つことができます。また、障がい等による困り事がある場合は、合理的配慮に関する相談をすることも可能です。

ジェンダーのことで悩んだら

大阪大学では「ダイバーシティ&インクルージョンの世界」という授業が全学共通教育科目として開講されています。生物学的観点、社会学的観点、法的観点、国際的観点、アンコンシャス・バイアスの観点等からダイバーシティの本質を考える授業になっており、ジェンダーのことを含め、大学院での学びの環境のあり方を考えることができます。学部生だけでなく大学院生も受講ができますので、ぜひ活用してみてください。

また、自然科学系の学部・研究科で学ぶ女子学生のネットワークであるasiam（アザイム）や女子学生と企業等との交流会、産官学連携の仕組みとしてDE&Iコンソーシアム・ハンダイなどが提供されており、他の学生や社会との繋がりを作りやすい体制や支援の枠組みが整えられています。

大阪大学にはダイバーシティ&インクルージョンセンターがあります。ウェブサイトには『大阪大学みんなのSOGI多様性ガイドブック』をはじめとする様々な情報が掲載されています。

Illustration by Storyset

キャリアセンター

キャンパスライフ
健康支援・相談センター

ダイバーシティ&
インクルージョンセンター

Postface

大阪大学の大学院では、所属しているゼミや研究室、研究科の外にも、自らの専門分野の知識や技能を伸ばし研究を深める機会がたくさんあります。必要に応じて、専門分野以外の知識を身につけ、社会活動を行うこともできます。このガイドブックでは、他の分野や社会と繋がる方法や学内のサポート体制を紹介してきました。このガイドブックを参照して、皆さんそれぞれの「大学院での新しい学び方」を構想し、行動へと繋げてもらえたら幸いです。

このガイドブックへの感想や意見、フィードバック、授業やプログラムの選択に関する相談がありましたら、大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構（i-TGP）ウェブサイトのお問い合わせフォームからお気軽にお知らせください。

参考文献・ウェブサイト

大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構（i-TGP）
https://itgp.osaka-u.ac.jp/　　こちらからもCHECK!▶

Illustration by Storyset

大阪大学「奨学生の募集について」
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/jasso/recruit

大阪大学全学教育推進機構「TA制度」
https://www.celas.osaka-u.ac.jp/senior/

大阪大学全学教育推進機構「多言語カフェ」
https://www.celas.osaka-u.ac.jp/students/international/cafe/

大阪大学大学院等高度副プログラム「未来の大学教員養成プログラム」
https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/ffp/

大阪大学国際教育交流センター
https://ciee.osaka-u.ac.jp/

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ
https://www.ssi.osaka-u.ac.jp/

大阪大学共創機構
https://www.ccb.osaka-u.ac.jp/

大阪大学キャリアセンター
https://career.osaka-u.ac.jp/

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター
https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/

大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター
https://www.di.osaka-u.ac.jp/

JREC-IN
https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop

中央教育審議会大学分科会大学院部会 資料1-2（2009）「修士課程・博士課程の関係について」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/004/gijiroku/__icsFiles/afieldfile/2010/02/16/1288658_2.pdf

Focus 中央大学大学院による大学院を目指す方のためのWebメディア「修士論文と卒業論文の4つの違い｜執筆に求められる能力を含めて解説」
https://graduate.chuo-u.ac.jp/media/index.php/2023/06/28/master-doctor-paper/

Acaric（アカリク）「修士論文は卒業論文とどう違う?卒論・修論・博論の特徴」
https://acaric.jp/articles/1210

全国大学生活協同組合連合会「第12回全国院生生活実態調査　概要報告」
https://www.univcoop.or.jp/press/life/report_m12.html

編集者・執筆者

※所属・学年は執筆当時のものです。

田尾 俊輔（TAO, Shunsuke）　大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構・助教（編者）
佐藤 浩章（SATO, Hiroaki）　大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構・教授（編者）
高津 遥（TAKATSU, You）　大阪大学大学院人間科学研究科・博士後期課程1年
梶原 久梨子（KAJIWARA, Kuriko）　大阪大学大学院言語文化研究科・博士後期課程3年
西村 僚之佑（NISHIMURA, Ryonosuke）　大阪大学大学院言語文化研究科・博士後期課程3年
延安 美穂（NOBUYASU, Miho）　大阪大学大学院人文学研究科・博士前期課程2年

協力者

※所属・学年は執筆当時のものです。

森井 英一先生　大阪大学大学院医学系研究科・教授
家島 明彦先生　大阪大学キャリアセンター・准教授
望月 直人先生　大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター・准教授
日高 乃里子先生　大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター・教授
濱田 格雄先生　大阪大学共創機構・特任准教授
有川 友子先生　大阪大学国際教育交流センター・教授
上須 道徳先生　大阪大学大学院経済学研究科・教授
大阪大学全学教育推進機構機構資料室のみなさま
根岸 千悠先生　京都外国語大学共通教育機構・講師
竹本 智哉さん　大阪大学大学院薬学研究科・博士後期課程1年
藤原 悠さん　大阪大学大学院工学研究科・博士後期課程1年
杉原 七海さん　大阪大学大学院医学系研究科・修士課程2年
髙田 玲さん　大阪大学大学院基礎工学研究科・博士前期課程2年
大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構横断型教育統括部門が2023年度に開催した
大学院副専攻／高度副プログラム受講者懇談会での登壇学生
堀井 祐介先生　大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構・教授
李 明先生　大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構・准教授
大阪大学国際共創大学院支援事務室のみなさま

発行元

大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 横断型教育統括部門

発行日

2024年3月31日